

【ぬまぬま放送局】

かな「ねえねえあやめっち」
あやめ「んー？」

かな「私新しく叶えたい夢ができてさー」
あやめ「また？この前は…ゲーセンでランカーになる～とか言ってなかった？」

かな「いや、それはもう叶えたんだけどさ」
あやめ「叶えたんだ…」

かな「ラジオっぽいことをやってみたいと思ってね！」
あやめ「へえ…そうなんだ」

かな「ラジオっぽいことをやってみたいと思ってね！」
あやめ「いや、うん…聞こえてるよ」

かな「…ラジオっぽいことを」
あやめ「…え？もしかして、やろうってこと？今？」
あやめ「うーん、ラジオねえ」

かな「え？あやめっち、ラジオやりたいの？」
あやめ「絡みかたウザいな！素直に言いなよ！」

かな「そうそう、なんかラジオって面白そうじゃん？」
かな「どうせ暇だし、そういう遊びしてみようよお」

あやめ「いや、そんなことしても誰も聞く人いないし…」

かな「いやいや、全国に点在する、メスガキ好きな極々一部の人が聞くかも…」
あやめ「なんでだよ、その言い方色んな意味で怖いな…」

かな「ねえやろうよ～頼むよ～おせんべいあげるから～」

あやめ「分かった分かった、やるから落ち着いて...」

かな「やったー！さすがあやめっち！」

あやめ「で、どうやってやるの？」

かな「んー...何も考えてない！」

あやめ「...あ、このおせんべい美味しい」

あやめ「ぬまぬま」

かな「ぬまぬま」

かな「というわけで、ぬまぬま放送局～！」

あやめ「いえ～い、ぱちぱち」

かな「いやー、始まったねあやめっち！」

あやめ「何一つ決まってないけどね」

あやめ「あれじゃない、ラジオなら企画やったり...とか？」

かな「おおたしかにー」

かな「というわけで、まずはぬまぬまクイズのコーナーです、ぱちぱち」

あやめ「唐突に始まったね」

かな「この前先生が約束を忘れて、これでもかっていうくらい虐めたでしょ？」

あやめ「まあ、これでもかっていうくらい...やったね」

かな「そこで問題！その時に発した言葉で一番多いのは、次のうちどれでしょう？」

あやめ「なんでそんな記録があるんだろう...」

かな「1、マゾ、2、チンポ、3、変態」

あやめ「どれも物凄く言った記憶がある...」

あやめ「うーん...やっぱり2のチンポかな」

あやめ「チンポってこう、汎用性高いし」

かな「本当の本当に？」

あやめ「うん、まあ、どっちでもいいんだけど」

かな「...残念！正解は1のマゾでした！」

あやめ「へえー、そんな言ってたんだ」

かな「ちなみに、変態は139回、チンポは217回、マゾは290回だよ～！」

あやめ「マゾ強いなあ」

かな「というわけでCM行ってみよー！」

あやめ「ぬまぬま」

かな「ぬまぬま」

あやめ「で、次はどうするの？」

かな「うーん、やっぱりメスガキにちなんだ企画かなあ」

かな「実はCM中に考えました」

あやめ「素早いね」

かな「題して、即興メスガキ台詞～」

あやめ「あ、なんかそれっぽい」

かな「ルールは簡単、この箱の中からカードを一枚引いて」

かな「描かれたお題を使ってメスガキっぽい罵倒台詞を言ってもらいます」

かな「メスガキの天才と言われたあやめっちに相応しい企画だね！」

あやめ「や、別に天才ではないけど...」

あやめ「まあ、やってみようか、ちょっと面白そうだし」

かな「じゃあまずはあやめっちから、引いて引いて～」

あやめ「私から？ええと、一枚引けばいいんだね」

あやめ「ん～...はい、ええと、なにこれ...メロノーム？」

かな「じゃあいってみよう！どうぞ！」

あやめ「ええ？ああ、ええと」

あやめ「チンピクする度に左右に揺れて、お兄ちゃんの雑魚ちんぽメトロノームみたい～♡」

かな「...やっぱりあやめっち天才だよ」

あやめ「なんか凄い恥ずかしいね、これ」

かな「じゃあ次は私、何が出るかな～」

かな「うん？飛行機...？」

あやめ「じゃあ、どうぞ」

かな「うわあ、にいにのちんぽ飛行機みたい♡」

あやめ「どんなちんぽだよ」

かな「ぶふつ」

あやめ「でかいってことかな」

かな「いや、即興ってなんか出てこなくて...」

かな「じゃあ、あやめっちだったら飛行機どうするの？」

あやめ「ええ？急に言われても」

かな「はいどうぞ」

あやめ「雑魚精液びゅーびゅー吹き出して、飛行機みたいにお空飛んでる～♡」

かな「ぶふつ」

かな「やっぱりあやめっち天才だよ」

あやめ「い、いったんCMへ」

あやめ「ぬまぬま」

かな「ぬまぬま」

あやめ「もうだいぶラジオっぽいことできたんじゃない？」

かな「そうだねえ、最後はやっぱりあれかな」

あやめ「あれって？」

かな「ふつおた」

あやめ「お便りないけど、そういういでやるってことね」

かな「えーと、日本にお住まいの、縞パンの色は一周回って黑白派さんからいただきました」

あやめ「一周回ったらそうなるんだ」

かな「エッチな音声の台本を書いていたら、パソコンの変換がエッチになりました

かな「どうしたらいいでしょうか？だって」

あやめ「地味に切実そうな問題だね」

あやめ「普通に予測変換のリセットとかすればいいんじゃないかな」

かな「はい解決！次行こう！」

あやめ「切り替え早いな、もうちょっと深ぼったりとか」

かな「いやまあ、いいかなって」

あやめ「まあ、それもそうだね」

かな「ええと次は、探し物はマゾペットさんからいただきました」

あやめ「なんか聞き覚えあるフレーズだ」

かな「マゾペットが欲しいのですが街で探しても見つかりません」

かな「どうすれば良いでしようか…だって」

あやめ「まず街で探すのを辞めさせるべきだね」

あやめ「そしてあれだね、これ栢ちゃんのお便りだね

かな「まあ、しおりっちから貰ったんだけどね」

かな「というわけで、サークルぬまぬま第3作目の作品をご紹介！」

かな「というわけでエンディングのお時間です」

あやめ「無理やり締め括ったね」

かな「最後にあやめっち、こちらを読んでください」

あやめ「え、なにこの紙…ええと…」

あやめ「本作をご購入いただき、誠にありがとうございます」

あやめ「このようなおまけトラックまでご視聴いただき、大変嬉しいです」

あやめ「今後も許す限り、メスガキ作品を制作していくでお楽しみに？」

あやめ「ええと、これって…」

かな「それではまた会う日まで！ぬまぬま～」

あやめ「ぬ、ぬまぬま～」